

ソフトボール雑感

次代を担う者への贈り物

2007年の高校総体、中学総体の全国大会が終わり、新チーム結成への取り組みが始まった。加速する少子化に伴って、単独校でチームの編成ができない学校が姿を消して行く状況を聞くにつけ、将来のソフトボール競技の行く末が案じられてならない。

鳥建クラブ、リベンジならず!

静岡(男子)、藤枝市、福井(女子)、両県で開催された第51回中日本総合選手権大会には、静岡県からは男子の部に鳥建クラブなど、一般、高校、小学生の7チーム、女子の部には一般のC L U B・J A P A Nをはじめ、高校、中学、小学生の計11チームが出場した。藤枝市で開催された。鳥建クラブが決勝まで進出したが、岐阜県代表に破れ、昨年に続き準優勝に終わった。

静岡県チームの戦績

- ▽一般の部
【男子一回戦】陸クラブ 8-5 けいせつソフトボールクラブ(新潟)、静岡甲種7-0 航空自衛隊サザンオールスターズ(岐阜)
【二回戦】鳥建クラブ 5-4 硬派クラブ(愛知)、静岡甲種6-0 アルファーズBC(富山)、陸クラブ2-10 岐阜国技

ソフトボール場を借りて練習すること、全国大会、来たのだからソフトボール場で試合をさせてやられたか」と言われた言葉が耳に残っている。度しかなない高校生としてのソフトボール競技を、世界大会の会場となったソフトボール場という、観心から願っていたと思う。

男子一回戦 赤佐EF

ソフトボール部員は「三週間前に来た。三週間前共に見てきた。親の背中を見て子は育つ」のたとえのように、先輩たちの後姿を見て入部してくる生徒は、プレイ・技術は下手でも「勝ちたい、戦いたい」と、思う高い意識があったので、目標を全国大会にセットするこが出来た。

女子一回戦 城南静岡

「勉強しろよ」となる。生徒も指導者もいつの間にか、言われないとしない、言われないと指導しにくい。本来自覚は生徒にとって必要なのでもあり、言わなくても毎日の授業を大切に、家庭学習をしっかりやる子は成果が上がる。

で検討して欲しい。特に次代を担う小・中・高校生の大会だけでも実現して欲しい。他のスポーツ競技に於いても、準決勝までは各地の競技場で行い、準決勝、決勝戦は専用競技場で行う。大会期間中の実施している。大会に参加する選手は専用競技場でプレイすることを目標に精進し、厳しい練習を続けている。そして、そのことがそれぞれの競技を生徒スポーツとして、愛し続ける理由のひとつになっていると思ふ。

欧州審判事情

六月十八日からチェコ・プラハで開催されたI S F男子ワールドカップに派遣審判員として参加し、貴重な体験をいたしました。大会期間中のブラハは日中の温度が25度もあり、試合中にはスコールのような大粒の雨に見舞われ、中断もしばしば。グラウンド整備を行い、その日の最終試合を終え、ホテルに帰るの午前二時を過ぎることもあった。

1 テーションも大きく異なり、三人制では外野飛球についてJ S Aでは追いかけて確認するが、I S Fでは球審がピッチャーサークル付近まで追いかけて、一、三塁の塁審はダイヤモンド内に入り次に起こるプレイに備える。いわゆる、フライの捕球の確認が、塁上で起るプレイに重点を置くかの違いである。四人制では三塁の塁審が外野飛球を殆んど追うため、残り三人の審判員によるスムーズなローテーションが行われた。

スペイン、ドイツ、チェコ、日本の五カ国日名の審判員で構成された審判団の一員としてこの記念すべき一回大会に参加でき、また、日本代表チームがアメリカチームを破り、初代チャンピオンに輝いた瞬間を目の当たりに見られたこと。さらに欧州の地にソフトボールの醍醐味、楽しさを十分に植えつけた舞台でもあった。今後、ますますこの地でソフトボール競技人口が増えることを願うばかりである。

取材 ノート

鳥建クラブ 三年連続九回目の優勝
平成十九年度県一般総合男子・女子選手権大会が裾野支部で開催され、男子は鳥建クラブが三年連続八回目の優勝。女子はN E Cアークセステクニカが優勝。この大会には男子32、女子2チームの参加を得て行われた。

- ▽男子の部
【一回戦】鳥建クラブ5-0 清水町クラブ、浜松市役所8-0 山崎クラブ、静岡甲5-4 金谷ウィングス、静岡クラブ7-1 駿河和真クラブ
【準決勝】鳥建クラブ4-3 浜松市役所、静岡クラブ9-2 静岡クラブ(六回コールド)
【決勝】鳥建クラブ0-0 2034 9 001010 2 静岡クラブ

二塁打で2点を先取。五回表は小長谷の本塁打などで3点、さらに六回表、高田の三塁打などで4点を挙げ得点さによるコールド勝ちを取め、三年連続9回目の優勝を飾った。

女子の部

「今やらなければ、今頑張らなければ」相手に勝つ前に先ず自分に勝つ。勉強と必要があった。勉強と同じように予習復習を取り入れ、短時間に集中練習・自発練習・個人の発想を大切に、大・小それぞれ目標を持って元気に明るく練習に励んでいく。理解をさせる指導は大変難しく、私自身が勉強させられた。目標は100パーセント達成できなかったが、伊豆中央高は素晴らしいチームであった。

三回表、鳥建クラブは一死・満塁から我妻の

藤原氏(長泉支部 副理事長)など 四氏が受賞
日本ソフトボール協会



歓迎 藤原氏(長泉支部 副理事長)など 四氏が受賞



常同審判員と松下副理事長 (右から3番目)



三島北高時代、私とソフトボール部員は「三週間前に来た。三週間前共に見てきた。親の背中を見て子は育つ」のたとえのように、先輩たちの後姿を見て入部してくる生徒は、プレイ・技術は下手でも「勝ちたい、戦いたい」と、思う高い意識があったので、目標を全国大会にセットするこが出来た。